

雌阿寒岳

1 概況

微小な地震が中旬から下旬にかけてやや増加しましたが、噴煙などの表面現象や地殻変動に変化はありませんでした。

2 噴煙活動の状況

ボンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は火口上 100m以下で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

3 地震活動の状況

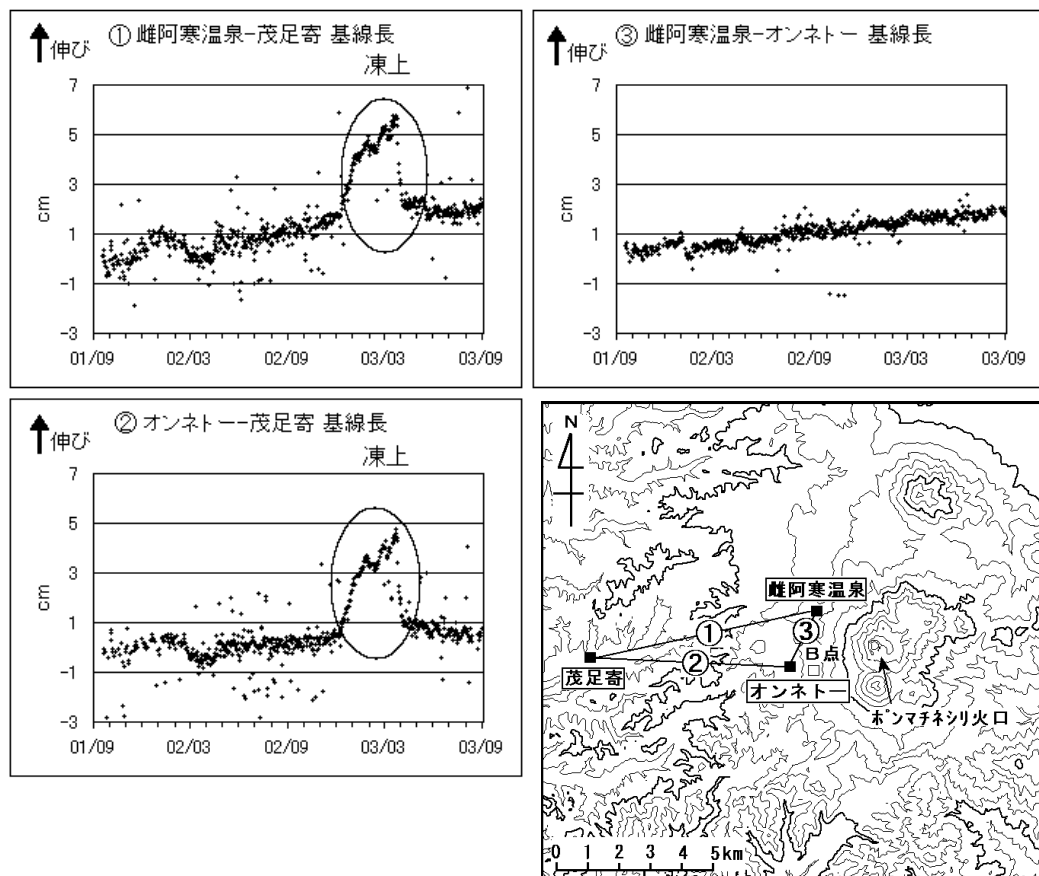
地震回数は 19 日に 34 回、20 日に 33 回とやや増加し、その後も 26 日にかけて 1 日あたり 10 回前後とやや多い状態で経過しました。一連の地震活動はいずれも微小な規模で、震源はボンマチネシリ火口直下の浅いところと推定されます。火山性微動は観測されませんでした。

月別地震・微動回数（B 点）

2002～2003 年	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
地震回数	34	21	20	39	204	83	223	375	163	155	113	195
微動回数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

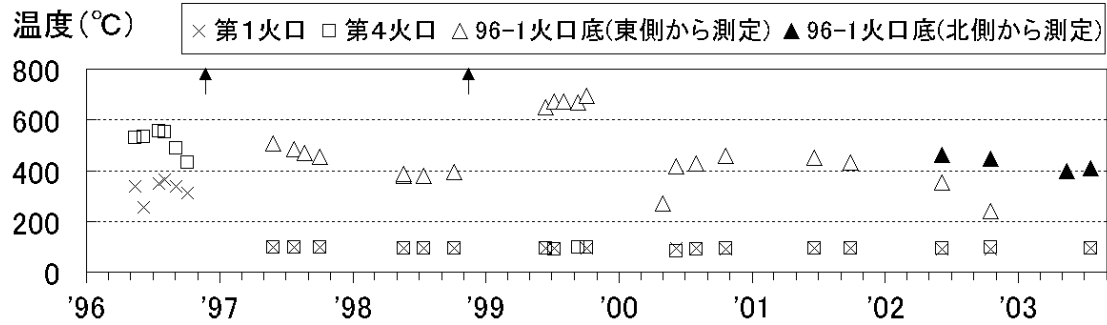
4 地殻変動の状況

G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません（図中○で示した変化は、茂足寄観測点の凍上による）。

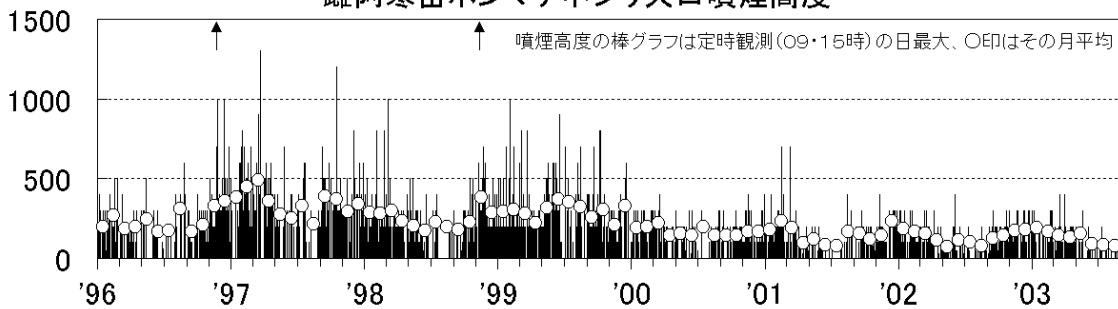


雌阿寒岳基線長変化（2001 年 9 月 19 日～2003 年 8 月 31 日）

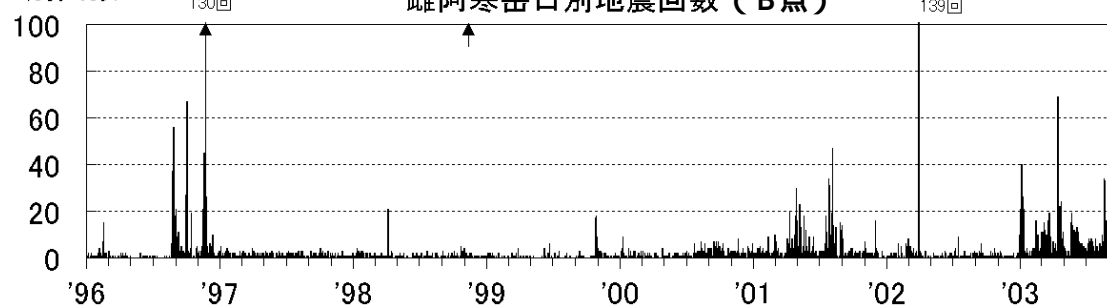
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



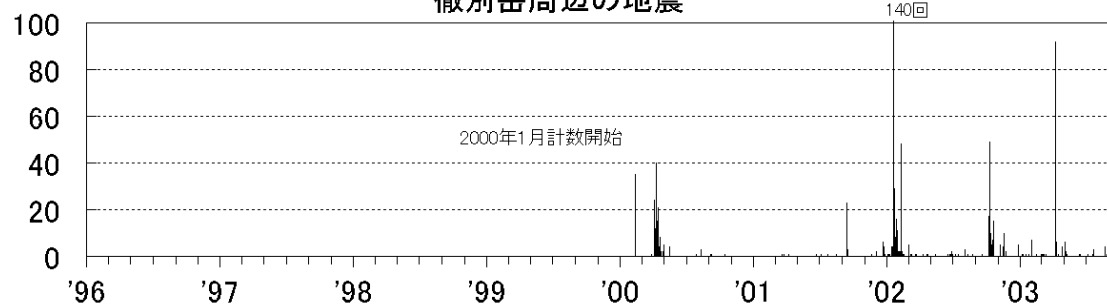
噴煙高度(m)



日別回数



日別回数



雌阿寒岳火山活動経過図（日別、1996年1月1日～2003年8月31日）↑印は噴火